



特定非営利活動法人

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

2007年度 事業報告書

◆FTCJ 事務局◆

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル3F

TEL&FAX:03-3835-0221

Email:info@ftcj.com URL:http://www.ftcj.com

2007 年度事業報告書

2007 年 4 月 1 日から 2008 年 3 月 31 日まで

1. 2007 年度事業を実施して

新しい支部が増え、子ども主体の活動が各地で行われました。同時に子ども育成活動が社会的に評価されました。
 07 年度中に新しく設立された支部は、京都支部、清林館支部(東海地方)、横浜山手支部(神奈川)などがあり新しい輪が広がりました。それぞれの支部の子どもメンバーによって活動の計画、実施がなされ国際協力活動や平和構築のための活動が取組まれました。また、FTCJ の大きな事業のひとつ、子ども代表委員による企画「子どもサミット」では、チャリティーコンサートを含めた企画にするなどして全国の子どもメンバーが出会える場を設定しました。普段なかなか会えない FTCJ メンバーが直接顔をあわせることで、子ども同士での情報交換や交流の場になりました。毎年恒例の「FTCJ 夏キャンプ」では、広島支部の企画・運営によって実施され、事業に必要な資金調達も基本的には支部が責任を持って行われたことで、より一層の子どもによる事業運営が実現しました。FTCJ ではこうした子ども主体の活動を促進・サポートするため、子ども活動応援事業を設置し取組んできた子ども育成活動の功績が認められ、全国のソロプチミストより推薦された中で 1 名に授与される「青少年指導者育成賞」を事務局長の中島早苗が東京-銀座グループの推薦によって受賞しました。

海外自立支援事業においては、2007 年度から新しく「モンゴルの子ども支援事業」を設置して、2008 年度 8 月から事業を開始するための準備や資金調達に取り掛かりました。

会計基盤の強化のため始めて NPO 法人用会計ソフトを購入し導入しました。しかし、資金不足のために会計関係作業全てを行うことができず、会計の流れやルールを明確にし、徹底するという目標を 2007 年度中にクリアすることはできませんでしたので次年度以降に引き継ぐ形となり、こういった組織強化のための管理業務とそれに係る人件費確保が今後の課題であり、必須事項です。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 子ども主体事業

事業担当者: 子ども代表委員

チームメンバー(子ども代表委員): 二木緑葉(高 3)、原口華奈(中 3)、三好そよ香(高 1)、安増千絵(高 1)

事業の目的と役割 及び 事業内の活動

- ・全国の子どもメンバーの活発な活動を目指し、情報交換や共有、意見交換の場をつくる。
- そのために、2007 年度は、子どもメンバー専用のブログの開設と、子どもサミットの企画・運営を実施しました。

子どもサミット	
評価と概要 (内容)	子ども主体事業として FTCJ サミット 2007 を実施しました。期間は一泊二日。 対象: FTCJ 各支部長・支部代表者・子どもメンバー 目標: ①全国の子どもメンバーたちの交流を深め、今後の活動に活かせる有意義な時間をともに過ごす。②全国に散らばる子どもメンバーと事務局との架け橋をつくり、FTCJ 全体の活動がさらに活発になることを目指す。
支出経費	¥115,059(交通費補助、宿泊会場費、食費、資料代など)
参加者	黒瀬まりこ(高2・東京)、金光まさのり(高3・四日市)、坂田ことみ(高1・熊本)、原たけし(高3・四日市)、原すすむ(中3・四日市)、平岡りょうすけ(高2・広島)、二木緑葉(高3・北海道)、原口かな(中3・事務局)、安増ちえ(高1・東京)、加藤まりこ(大1・事務局)、部分参加永野恵理(社会人・理事・事務局員) 合計 11 名
実施日・場所	08 年 3 月 20 日 12 時開始～21 日 17 時解散 東京(カナダ大使館、早稲田奉仕園、FTCJ 事務所)
プログラム	1.スタッフ(子ども代表委員)集合、ミーティング → 2.チャリティーコンサート練習参加、本番参加 → 3.宿泊施設へ移動 夕飯 → 4.参加者による自己紹介 → 就寝 5.起床 朝食 → 6.片付け 事務所へ移動 → 7.参加者活動紹介、活動の悩み、活動の課題などのシェア、おとなとの対話、改善策について意見交換 ・FTCJ 子ども活動における問題点や改善点を挙げ、改善方法をディスカッション →地方での活動や活動初めの部分をするためのコツ、引継ぎや人材育成について意見を出しました。 ・FTCJ事務局と子どもメンバーとのかかわりについて →子どもが活動しやすくするための事務局やサポーターとの役割やあり方について意見を出しました。 ・FTCJ事務局内の事業についての質問、要望、アイデア ☆詳しくは、子どもサミット報告書があります。ご希望の方は事務局までご連絡下さい。
ふりかえり	昨年度のサミットでは活発な意見交換をすることが出来ました。が、まだまだ子どもメンバーとおとなメンバーとの間に温度差があったり、一人ひとりの主張が強すぎたりと、考えるべきことが新たに生まれた行事でもありました。今年度は開催さえも危ぶまれましたが、無事に開催することが出来本当に嬉しく感じました。以下の報告を活かし、来年度以降もさらによりサミットにしたいと意気込んでいます。 報告者: 子ども代表委員・子ども理事 原口華奈(07 年度中学 3 年生)

1年間でふりかえって(子どもサミット報告書より)

○事業を実施した感想など

一番の感想は、「やって良かった！」ということです。今年の子ども代表委員は、大学生サポーターを含めた4名で春先から直前までサミットに向けての活動を続けて来ましたが、直前までサミットをする目的や価値を見失いそうになっていました。宿泊施設や予算、参加者・スタッフ不足の問題だけでなく、活動の目的そのものを問い直すことが多かった中で、皆の「メンバーに会いたい！」という気持ちで当日まで来れたのだと思います。1日目はチャリティーコンサートの会場での集会だったので、サミットメンバーと会ったその場で交流できなかったのが反省点でした。けれど、1日目の夜と2日目ではFTCJや活動のことについて活発な話し合いが行えたので、「やってよかった！」という気持ちでいっぱいでした！今後は2日間で得たものを子ども代表委員たちでFTCJに反映させていかななくてはなりません！最後になりましたが、当日まで沢山のサポートをいただいた皆さん、会期中お世話になった皆さん、本当にありがとうございました！（二木緑葉）

今年のサミットは、個人的にも代表委員的にも色々と紆余曲折がありました。当日思うように運ばず、かなり焦ったのですが、2日目の事務局訪問及びディスカッションで色々吹き飛んで良かったです^^FTCJはやっぱりおとなと子ども、支部同士、支部と事務局の連携が大切ですね。みんなが話し合えば、きちんと活動の方向性も見えてくるし、やらなければいけないことも見えてきました。今回開催することが出来て、本当に嬉しかったです。ありがとうございます☆ 来年は、もっと良いサミットをつくりたいと思います！（原口華奈）

○来年度へ向けて

とにかく最後の最後まで「未定」だったことが多すぎたから、来年以降はちゃんと企画側としてキッチリつめていけたらいい事前からやるべきことは計画通りに進めていたので、代表委員頑張った！

【写真で見るFTCJ子どもサミットの様子】

写真右 カナダ大使館でのチャリティーコンサート終了後に子どもメンバーで撮影しました。→



写真上 2日目事務局に移動して、ディスカッションの前に参加者で撮影！

写真下 事務所でのディスカッションの風景。皆で真剣に話し合いました。↓



(2) 子ども活動応援事業

事業リーダー：永野恵理(社会人)

チームメンバー：9人

事業内容：子ども活動家育成、プログラム開発、子どもメンバー相談窓口・サポート、夏キャンプサポート

チームメンバー：西垣春奈(社会人)、町井望(社会人)、遠藤恵子(社会人)、佐藤美紗子、中島早苗(社会人)、井上皓子(大学生)、仲尾千枝(大学生)、他ボランティア2名

事業の目的と役割

- 1) 国内の子どもが、世界各地の開発途上国を中心として児童労働など苛酷な状況に置かれている子ども達の支援の企画・実行及び交流などを主体的に行えるように育成する。
 - 2) 国内外の平和と子どもの権利の擁護を求め、子ども参画を果たすための子ども応援を行う。
- そのために本年度は、夏キャンプ IN 広島、リーダーシップトレーニングワークショップとそのプログラム開発

第7回夏キャンプ'07 in 広島

報告：永野恵理

日時(期間) 場所(実施場所)	担当者とその人数	対象者(参加者) と人数	事業費	評価 (5段階)
2007年8月7日(火)14時 JR広島駅集合～10日(金) 広島県広島市内古民家 (平岡家のご協力を得て場 所をお借りできました。)	●企画運営 広島支部 4名 [名前・学年・キャンプでの役割] ・平岡良介 高2・リーダー・司会進行 ・八島菜摘高2・広報・平和学習プログラム ・田島優子 高1・会計・活動紹介 ・八島結花 中3・書記 ●事務局 3名 サポート総括：永野恵理、 LT担当：中島早苗、仲尾千枝 ●ボランティア 4名(食事その他感謝！) 茶円愛子、藤江理紗、難波幸博、露久保雅樹	・参加者：8名(8歳～18歳)永野陸人、二木緑葉、国松友樹、瀬川愛葵、安増千絵、安増千絵、安藤ゆり ・見学：藤井浩子(社会人)	支出： 事務局交通費 10万円 (広島支部との経費折半のため FTCJ としては41,112円) 収入：	☆☆☆ ☆

<目的>

- ①参加者が世界の貧困や児童労働問題、子どもの権利について理解を深める。何が出来るかを考える機会とする。
- ②広島に落とされた原爆を知り、平和について考える。

<活動内容・プログラム>

・平和学習 [原爆ドーム ・ 平和資料館見学] ・世界の子どもの現状 学習プログラム ・活動紹介(自分の活動の新聞を作って紹介) ・リーダーシップトレーニング ・お楽しみ交流プログラム 流しそうめん・バーベキューなど

★広島支部・子どもメンバーの広報★

みなさん、8月6日が何の日か知っていますか？8月6日は、広島に原子爆弾が投下された日です。広島に住む人なら誰でも知っている日ですが、他県では知らない人がたくさんいます。私たちが広島で夏キャンプを開きたいと思ったのは、たくさんの方に原爆について知ってもらいたいと思ったからです。広島夏キャンプでは、戦争と平和について学び、一緒に考えたいと思い、参加者が楽しめるような色々なプログラムを考えています☆「活動を始めたばかりでよくわからない」「なかなか活動ができない」という人も大歓迎です。是非夏キャンプに参加してみてください！支部活動紹介や児童労働ゲームなどを通して、全国で活動しているメンバーと交流を深め、仲間も増えます！メンバーみんなで良い夏キャンプを作り上げますので、みなさんの参加お待ちしております！

<今回のキャンプの特徴・成果>

広島支部主催オリジナルプログラム(平和記念館を全員で訪れる前夜に原爆で亡くなった子どものことが描かれた絵本の読みかかせを行い、鶴を折り当日捧げ、被爆者の女性から体験談を聞くなど)によって、参加者から原爆の恐怖を学び、知ることができたという感想が多く、子どもから子どもへの平和構築のためのプログラムとして有効だった。

<ふりかえり>

・福島、大阪、沖縄、埼玉、岩手、北海道に続き、第7回目となる2007年度は広島支部が企画運営を担い、全国の子どもを受け入れ、国際協力について学び、意見を交換する場を提供できた。
・会計を全て広島支部に行ってもらったことで、夏キャンプ全体を子どもメンバーが主体的に企画運営ができ画期的であった。当初、参加費は安くして交通費補助はたくさん出したいという話しが出たが「もちろんそうできるならかわまない。ただし事務局からは1円も出さない」と告げ、経費を自分たちで算出し参加費をいくらにできるか考えてもらった。当初花火代1万円と計上していたものを取り下げたり、食費をいくら安くできるか悩むなど広島支部が自主的にいくら資金を集められるかを考え、夏キャンプの主体となり考える姿が見えた。経費という切り口からも自主性や責任感が感じられ実社会に

対応できる子ども主体の活動として支部の大きな財産となると確信した。

- ・08年度も引き続き支部に会計を主動で行ってもらい、事務局は支部をサポートするという姿勢を大切にしていきたい。
- ・サポーターボランティアのみなさん、食事作りを一生懸命してキャンプを支えてくれたこと、また、広島サポーターのお母さん方による食事提供にも心から感謝！

【写真で見る夏キャンプの様子】

原爆ドームや周辺を歩き歴史を学びました。

宿泊のため利用させて頂いた古民家の脇で



子ども育成/子どもサミットサポート

報告:加藤真理子

<目的>

子どもサミットの企画・運営を担う3人の子ども代表委員たちのサポート。

<成果>

全国から9人中・高生メンバーが集り、お互いの顔を見て話しあうことで、活動をしていく上での喜びや悩みをシェアすることができた。また、様々な立場にある参加者たちがお互いを刺激しあい、今後の活動へのモチベーションアップにつながった。

<ふりかえり>

予算・宿泊先・参加者の確保などスムーズに行かなかった点多々あるが、結果的に参加者から前向きな評価をもらうことができたのでよかった。また、今年度は3人中2人の子ども代表委員が受験生であったこともあり、サポーターとしての私がか力になれたのであれば嬉しく思う。この活動を通じて、FTCJにおける子どもメンバーと大人サポーターの協力体制の重要性を一段と強く感じた。

<これからの抱負・課題>

- ・子どもメンバーとその声を、さらに事務局に取り入れたい。
- ・活動の透明化をはかり、子ども会員が“FTCJ”として連帯感をもつ事で情報共有、交換し、今後の活動の活性化に繋がりたい。
- ・「子ども主体」を見直し、子どもと大人が支えあえる関係を築きたい。
- ・子どもの活動をサポートするためノウハウなど智慧の文書化、システム化をしていき、次年度につなげるなどしていく。

子ども育成/プログラム開発 報告:西垣春奈
リーダーシップトレーニング ～夢へのステップを描こう～

日時(期間) 場所(実施場所)	担当者	対象者(参加者) と人数	支出額 (千円)	評価 (五段階)
2008年3月23日(日) 10:00～16:00 シェイクオフィス(渋谷) 出光池尻ビル 5F	スタッフ:5名 西垣春奈(元子どもメンバー 社会人)、 遠藤恵子(元インド事業担当 社会人)、 町井 望(元子どもメンバー 社会人)、 中島早苗(社会人)、 召田安宏(元拓殖チーム 社会人)	参加者数:16名 (参加費も表示) 子ども(～高校生) 500円 :8名 大学生1000円 :4名 社会人1500円 :4名	支出:21 交流会の飲料水、資料 印刷費、送料 通信費等	☆☆☆☆

<目的>

参加者がより良い世界を創るために「本当にやりたいこと」、「やるべきこと」を発見する。そして、「自分に何ができるの?」、「何をすれば良いか分からない!」などの悩みを楽しみながら考え解決していき、問題に取り組むためのその日からのアクションプランを立て、実行に移していくヒントを得る。

<プログラム開発としての内容>

2007年10月からリーダーシップトレーニング(ワークショップ形式)のプログラム内容の見直しと教材開発・作成を実施

<プログラム内容>

①アイスブレーキング「このひと、だあれ?」②「リーダーとは?」③アクションプラン1「成功と失敗をカテに」
④アクションプラン2「夢を見つけよう!」⑤アクションプラン3「夢たまご」⑥アクションプラン4「アクションプラン」
⑦アクションプラン5「発表」⑧ふり回り⑨交流タイム⑩実施1ヵ月後に参加者がプログラム内で作成した自分への手紙と写真を送り、アクションプランの実施状況をチェックできるフォローアップシステムを実施。

<参加者の声 アンケートから抜粋>

●自分がこの先どうしたらよいか、はっきり見えてきてよかった。●今回、東京で学ぶことがすごく多かったです。今までワークショップをうけたけど、こんな風にやったのは初めてだし、今までで一番やりやすかったです。真似します!●フレンドリーな感じでとても良かったです。●もっともっと、こういう機会が増えればいいなあと思います。●自分を知るのはむずかしいので、貴重な体験でした。●座席が大人3+子ども1のところがあったので、うまく調整してあげられるとよかったかも…おやつの時間とか少し会話の時間を作ったらよかったかも!? ●「ワークショップは何をするのか?」ってイメージできなかったけれど、参加してみても楽しかった。●ピッタリに終わってすごいです。●席が年齢別になっているのが良かったです。他の年代の人の悩みより同世代の方が共感できそうだし、話しやすい。強いて言えば、最後のアクションプランの発表は全員でやりたかったです。発表する側は他の年代に言うことによって「やらなきゃ」と強く思えるだろうし、他の年代の人の話を聞くのも良い参考になるので。●小しばいが良かった。

<ふりかえり>

・参加費の見直しが必要 ・参加者の幅が広いとファシリテーションが難しいので年齢を区切って実施するなど工夫が必要 ・もう少し参加者同士で意見交換できる時間をとれば良かった ・団体内でのリーダーシップトレーニングチームの位置づけを会員のコンセンサスを得ながら図る必要があるのではないか。

【写真で見るリーダーシップトレーニングの様子】



参加者は、プログラム中に、自分自身のペースで実施するアクションプランを作成し、実行するための宣言書を作成しました。各自それを手に持ち写真撮影しました。

(3) 外部ネットワーク事業

事業リーダー : 伴野保志(社会人)

チームメンバー : 西郷和将(JYG8、G8NGO ネットワーク担当)、中島早苗(日比・関西圏ネットワーク)、その他

事業の目的と役割: 様々なセクター、組織とつながってネットワークを構築、協働し FTCJ のビジョン、ゴールを実現することを目指す事業です。

<2007 年度参加構築したネットワーク>

- ・ JNNE(教育協力 NGO ネットワーク): 開発途上国の子どもへの教育支援を行っている NGO によるネットワーク。登録団体間での情報交換、勉強会を実施しています。また、外務省との意見交換や政策提言なども行います。
- ・ 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン: 世界の全ての子どもへの良質な基礎教育提供を目指し、世界の EFA(万人のための教育)運動とつながって国内でのアドボカシーや政策提言などのキャンペーン活動をしています。JNNE 加盟団体や日本教職員組合 5 組織で実行委員を構成し、実施しています。FTCJ は運営委員団体として参加。
- ・ 児童労働ネットワーク(CL ネット): 児童労働の廃絶に向け、勉強会、キャンペーンなどを行っています。児童労働問題に取り組む NGO、労働組合、その他非営利組織、個人で構成されており、その中から運営委員を選出し設置しています。FTCJ は運営委員団体として参加。
- ・ 日比 NGO ネットワーク: フィリピンでの開発支援活動を行う日本の NGO とフィリピンの NGO によるネットワーク。フォーラムや外務省との懇談会、団体間での情報交換を実施しています。
- ・ G8NGO フォーラム: 2008 年、日本で「主要国首脳会議」(G8 サミット)が開催される。持続可能な社会の実現を目指して環境、平和、人権、世界の貧困問題の解決と開発などの地球規模課題に取り組んでいる NGO が本年度サミットに向けて結成されたネットワーク。※FTCJは「貧困・開発」「人権・平和」のユニットに所属している。
- ・ Japan Youth G8 Project(JYG8): 2008 年7月に北海道の洞爺湖で開催される G8 サミットを機会に青年の活動分野と地域を越えて連携をし、日本の青年の声を高めていくプロジェクトで最終的には分野と地域を越えた青年の活動のプラットフォームになることを目指している。
- ・ ワン・ワールド・フェスティバル(OWF): 関西で国際協力や交流事業を行う組織を中心に運営される地球規模の課題についての情報提供や、国際協力活動に参加する機会・意義を提供するために行われるイベント。FTCJ は実行委員として参加。
- ・ ほっとけない世界の貧しさキャンペーン: 世界の貧困問題を解消するために活動するネットワーク。FTCJ もキャンペーンに賛同し、参加しています。
- ・ その他非営利組織への会員登録
よりよい事業の運営のため JANIC、日本 NPO センター、DEAR の団体会員登録を行いました。その他、労働組合(NTT 労組)や企業、他団体、関西で活動する組織とつながってイベントへの参加協力を行いました。

<ネットワーク構築事業による活動一覧>

ネットワーク名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲・人数	支出額(千円)
JNNE	JNNE からの情報を事業担当者や会員へ提供	通年	-	2 人	会員全体	5
世界中の子どもに教育をキャンペーン	トークイベントへの講師派遣、署名活動、外務大臣への嘆願書の提出など	主に 4 月	JICA 地球ひろば 外務省、その他	8 人	会員全体	-
	パネル、人間すごろく、途上国の子どもの教育と教員の状況についての証拠パネル、世界一長い人間の鎖、EFA リレートーク(会場:市民のひろば)	4 月 3~15 日	JICA 地球ひろば	12 人	1071 人	1
CL ネット	児童労働に関する映画&トーク「児童労働、農業、貧困~今アフリカでは」と児童労働反対世界デーウォーク(渋谷・表参道)の準備、広報、運営	6/17	UN ハウス 3 階 国際会議場/ 渋谷・表参道	25 人	500 人	21
	児童労働を考えるセミナー開催(共催:ACE,JICRC)	6/8	PiaNPO(大阪)	2 人	45 人	5
	大阪・御堂筋でのウォークを企画、準備、運営を実施(共催:ACE、JICRC)	6/9	大阪聖パウロ教会・御堂筋	4 人	38 人	5

ネットワーク名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲・人数	支出額(千円)
日比 NGO ネットワーク	第二回日比 NGO シンポジウム開催に向けての話し合い、準備、その他国内での集まりに参加	通年	東京	5人	-	-
G8NGO フォーラム	「貧困・開発」「人権・平和」のユニットへの会合参加、外務省と懇談会参加	7月以降	東京	2人	会員全体	10
	NGO に対する G8 についての説明会	3/24	外務省 7F 中央会議場	2人	会員全体	-
JYG8	G8 にユースの声を届けるためのネットワーク構築と会合参加	7月以降	東京	2人	会員全体	-
	持続可能な社会のための日本青年サミット	3/7~9	横浜市三ツ沢公園 青少年野外活動センター	3人	6人	4
OWF	大阪での国際協力のおまつり「ワン・ワールド・フェスティバル」に向けての実行委員として企画・準備話し合い参加	6月以降	大阪市内	2人	会員全体(特に関西会員)	129
	ワン・ワールド・フェスティバル運営: ブース出展による活動紹介と「元フィリピン大使を招いて中高生ができる国際協力を考えよう」パネルディスカッション	2/2、3	大阪国際交流センター	10人	13,500人	

<その他ネットワークによる活動一覧>

NTT 労働組合・横浜	児童労働撲滅キャンペーン 07in 横浜への参加、パネル展示・映画上映	8/22	横浜駅東口新都市ホール・新都市プラザ(横浜市)	1人	2,000人	-
NTT 労働組合・東京	児童労働撲滅キャンペーン 07in 東京への参加、ブース出展	11/10	東京ドームシティ・ラクーアガーデン	8人	2,000人	-
丸幸ビル NGO 祭り	丸幸ビルに事務所を構える NGO で共催して事務所全体を解放し活動紹介を実施。	9/9	丸幸ビル(東京都台東区)	12人	300人	-
グローバルフェスタ	国際協力を携わる団体、国際機関、政府機関などが集結し活動紹介を行うおまつり	10/6,7	日比谷公園(東京)	20人	5,000人	59
チャリティーライブ	T-TOC レコーズ主催チャリティー音楽祭で活動紹介を実施	11/28	府中の森コンサートホール	11人	500人	1

< 外部ネットワークチームメンバー: 西郷和将(大学1) >

○一年をふりかえって

今までにないぐらい、いい経験をさせてもらっていると思う。月 1 回の NGO 同士の集まりの中、最年少で意見発言や、また「CivilG8」に参加させてもらえるなど「子ども」であっても、ちゃんと参加できることがうれしかった。

○これからの抱負・課題

これから 7 月のサミットに向けてフォーラムに何が出来るか所属ユニットで話し合われる。しばらく様子を見ながら行動だが、可能であれば自分も北海道で何かアクションが出来ればと思っている。

その他・

分野は違って、活動に関係する団体としっかり提携が取れるように幅広く動いていく。日本でも「子どもの性的搾取」など問題があるため、日本の問題も取り組んでいきたい。

【写真で見る活動の様子】

◆児童労働ネットワーク6月17日のウォーク(東京)の様子



ウォーク横断幕を作成した明学支部の高校生たち



◆「世界中の子どもに教育を！キャンペーン」で麻生元外務大臣に途上国の初等教育援助の拡充をお願いする嘆願書を提出。写真はフィリピンのスタディーツアーに参加し教育を受けられない子どもの現状を調査した中学生と高校生メンバー。1071人の人間の鎖(メッセージ)も手渡ししました。 →



◆ワン・ワールド・フェスティバルではブース出展を行ったり、山崎元フィリピン大使、顧問の堀内氏、森田氏をお招きして京都支部や愛知の高校生メンバーによるパネルディスカッションを行いました。(下・左)



◆グローバルフェスタでは、インド支援事業のための手作りサモサの模擬店やパネル展示・物品販売ブースを出展しました。高校生メンバーがインタビューに答えるなど活動をアピールしました。(上・右)



(4) アドボカシー(啓発)事業

事業リーダー: 中島早苗(社会人) チームメンバー: 井上皓子、佐藤美紗子、その他

事業内容 : スピーカー派遣、イベント、ニュースレター、ホームページ、出版、資料開発、物販など

事業目的: 国際問題や権利を奪われた子どもを巡る状況を様々な方法で伝え、多くの人に知ってもらうことで問題解決につなげる。

活動報告: イベント 担当: 佐川めぐみ

・日時(期間) ・開催場所	<イベント名> ・活動内容	担当者/スタッフ数	対象者/ 参加者数	支出額 (千円)	評価 5段階
3/20(木・祝) カナダ大使館 (東京・青山)	<チャリティーコンサート> カナダ大使館コンサートホールにてインドとフィリピン支援事業運営のためのチャリティーコンサートを実施。プロ・アマチュア30人以上の出演協力と企業からの協賛やその他多くの方の来場を得て開催。収益は約20万円。 プロのアーティスト協力(順不同・敬称略): タケカワユキヒデアイ武川、SafoFamily、Iroha 協賛: マニライフ生命保険、NTT 労組、(株)ワイズ・インフィニティ、R&T スポーツ、NPO 人権タイムス	インド・フィリピン支援チーム、子ども代表委員静岡、四日市子どもメンバーなど20人	来場者 158人 その他 45人	428	4

○その他のアドボカシー事業報告

事業名	内容	作業実施 日時	実施 場所	従事 者 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額 (千円)
ニュースレター発行	NL 15号 特集☆ピア来日報告	5月	—	3人	各号120部印刷	18
	NL 特別号(16号) フィリピン、インド支援事業・スタディツアー報告	1月				
	NL 17号 夏キャンプ IN 広島報告 その他活動紹介	08年度				
スピーカー派遣及び事務所訪問対応	世界の貧困、児童労働問題、紛争、子どもの権利、それに対する取り組みとして団体活動紹介のため出張講演や事務所対応を行った。可能な限り、中高生メンバーが参加した。学校対応は13校、その他団体対応は3回実施した。	通年	東京、神奈川、埼玉、名古屋、大阪、兵庫	15人	関東、関西の学校や団体、一般向け施設などにて約1200人	42
ホームページ運営	ホスティングサーバー移転やメンテナンス Jcafe→ハイパーボックス	12月以降	—	2人	※1日平均350人程度のアクセスがある。	管理費として報告
	新しい情報をアップ・デザインするなど随時対応。	通年				
	開発教育教材の開発と作成 ・児童労働ゲームカード改訂 ・働く子どもシミュレーションワークショップの開発と教材作成 ・児童労働及び活動紹介パネル作成	7~3月	事務所・大阪連絡所	述べ13人	子ども、一般	10
	フィリピン・スタディツアー報告書制作	4~9月	事務所,他	14人	子ども・一般	4
	インド・スタディツアー報告書制作	11月	—	10人	子ども・一般	—
出版	Take Action 出版準備	通年	事務所、他	3人	子ども、一般	—
	Me to We 日本語版 出版準備	9月以降	事務所,他	5人	子ども、一般	5
	出版物の仕入れ・販売	通年	—	4人	子ども、一般	88
物販	フェアトレード商品の紹介資料と仕入れ、販売	通年	事務所	4人	子ども、一般	59

(5) 海外自立支援事業

事業リーダー：フィリピン支援：萩原由加(高1)/インド支援：竹内悠子・荻野剛生(大学生)/モンゴル・その他：中島早苗
支援事業地：フィリピン、インド、モンゴル、その他 FTC カナダを通してアフリカ(ケニア・シエラレオネ)など

<フィリピン支援事業>

FTCJ では、3つのフィリピンのパートナー団体を通じて支援事業を実施しました。パートナー団体は次の通り

1. プレダ基金(PREDA Foundation Inc.)

プレダ基金はフィリピン・オロンガポ市にある NGO で性的虐待や刑務所から子どもを保護し支援するなどしています。団体名の PREDA は、Peoples Recovery Empowerment and Development Assistance の略で「人々の回復や発展の支援」という意味です。1974 年アイルランド人のシェイ・カレン神父とフィリピン人のヘルモソ夫妻によって設立され「子どもや女性、貧困層の人々を守る」という使命を掲げて活動しています。貧困層の自立のためフェアトレード事業も行っています。ノーベル平和賞に過去 2 回ノミネートされるなど世界的に評価されています。

2. タタグ(TATAG)

TATAG は(Tayo Ang Tinig At Gabay)」の略でフィリピン語で「私たち自身が声であり道標である」という意味。フィリピン・オロンガポ市を拠点に路上で働く子どもへのワークショップ(ストリートエジュケーション)やその他教育支援、ストリートエジュケーター育成、貧困地域への自立支援と幼児教育を行っています。1994 年に元ストリートチルドレンの経験を持つビル・アバイガル氏によって設立。子どもの力を引き出し、子ども自身が声をあげられる社会を目指し活動しています。

3. Consortium of Community Initiatives on Education for Peace and Development Inc..(平和と開発のための

教育推進地域団体協議会)この組織は、いくつかの NGO が加盟してネットワークを作って運営されています。

ミンダナオ島の子どもと女性の自立のための支援団体。いくつかの事業の中で、紛争被害にあった子どもへの心と体のケアや教育支援事業に FTCJ では応援しています。

事業名	事業報告と感想	実施日時	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
プレダ基金支援	プレダ基金で保護されている子ども(少女・少年あわせ約 120 人)が学校に行ったり、野外活動に参加するための移動に使う大型車(バン)の購入のために、募金活動を実施。また、プレダ基金が販売するフェアトレード商品を購入し貧困層の自立への支援を行った。 →プレダ基金のための集った資金はバンの購入額 110 万円に達するまで団体にプールしている。	通年	プレダに保護された少年・少女 120 人	44
タタグ支援	タタグが支援する働く子どもと日本の子ども・おとなが手紙を通じて交流しながらタタグを支援する制度「文通プロジェクト」を見直し設置・運営した。それら集った資金は、年間 18 万円かかる事務所維持費等(ストリートエジュケーター養成、働く子どもへの栄養強化プログラムの支援も含む)の支援のために送金を行った。	通年	路上で働く子ども、および貧困層の子ども 約 100 人	200
ミンダナオ支援	フィリピンの南にあるミンダナオ島では、いくつかの反政府武装グループと政府軍の間で紛争が起きており、それによって子どもたちが殺傷されたり、家族を失ったり住む場所を追われるなど犠牲となっています。2007 年 11 月に、ミンダナオ島の北部のスリガオ・デルサールの山岳地域でフィリピン政府軍と NPA(新人民軍)との間で激しい武装衝突があり、死傷者が出たり家が壊され家畜が奪われるなど村に大きな被害が出たために、1,267 人も女性や子どもが避難しなければいけない状況におかれました。そこで、FTCJ では、子どもの教育支援やリハビリのためのワークショップを実施できるよう支援活動を行いました。	通年	紛争被害にあった子ども約 200 人	80
スタディーツアー	フィリピン支援事業の状況を把握し、支援先の子どもや児童労働の現状を調査するためにマニラ、オロンガポ、ミンダナオ島を訪問した。参加者はスタッフ含め 9 人。静岡からの参加もあり、今後のネットワーク作りの良いきっかけともなった。今後はスタディーツアー参加者によるフィリピンの現状を伝えるアドボカシー事業につなげる。 また、スタディーツアーの実施にあわせて国内で文房具、靴、顕微鏡、歯みがきセット、楽器、絵本などの教材を集めるプロジェクトも実施し、訪問時に参加者が支援物資として現地に届けることができた。	3/24~ 31、 4/6	9 人+支援物資受益者は子ども 500 人以上	346

＜スタディーツアーの時に支援物資を手渡しできました、ご協力頂いた皆様ありがとうございました！＞

報告：支援物資担当：松井鈴果(高1)・萩原由加(高1)

- 支援団体(プレダ基金)のスタッフと子どもに 文房具や楽器を渡しました。
- 支援団体(タタグ)のスタッフと子どもに靴を寄贈。



- プレダ基金のスタッフの方と



- ミンダナオ島の少数民族の学校に顕微鏡を渡しました。



- タタグの子どもたちに物資配布時の様子
- マニラに住む子どもに歯みがきセットを渡しました。



<インド支援事業>

コルカタにある NGO「CCD(FTC インディア)」を通じて支援事業を実施しました。

報告: 竹内悠子・荻野剛生(大学生)

チームメンバー: 吉田淳(大学4)、古津真弓(大学4)、田野真由佳(大学4)、杉山明日香(大学4)、大麻真衣子(大学4)、セス・ハワード(大学4)、臼井浩人(大学2)、志村綾子(大学2)、斉藤郁恵(大学2)、落合恭子(大学2)、佐川めぐみ(大学1)、今津有梨(大学1)、竹内弓乃(大学1)、高木駿(大学1)、浅田佳代子(大学1)、田口沙奈枝(大学1)、紙谷重慶(大学1)、多賀彩音

事業内容(事業の目的と役割)

インドの貧困のために権利を奪われ、児童労働などの過酷な環境に置かれている子どもが、FTCJ の支援を通して貧困から助け出され、必要以上の空腹や苦痛を感じることなく子どもらしい子ども時代を送り、それぞれの環境で自立して生活するのに十分な教育を受けられるよう支援します。

パートナー団体: Center for Communication and Development(以下 CCD)

<設立経緯・背景>

1978年、現在この団体の理事を務めるスワパン・ムーカジ氏と彼の友人アマタバ氏が大学卒業間近だったときに起こった洪水がきっかけとなりCCDが設立された。洪水は多くの死傷者を出し、人々の生活を崩壊させた。しかし、人々は政府などから十分な救済を受けていなかった。スワパン氏たちは不幸になった人々の援助活動を始めた。最初は4人程のメンバーで市街地から離れた所に医療診療所(Medical clinic)を作り、1980年から学校のない村に学校を建設し始める。1983年から収入向上プロジェクト(Economic welfare activities)を開始する。このプロジェクトは、ミシンや家畜・原材料を村に与え、その使用方法や飼育方法を教え、商品を作り出し、それを売ることによって生計をたてていく。最後にはミシンや家畜を返してもらい、誰に頼ることもなく村で自立していけるようになることを目的としたシステムである。翌年からは、危険な工場で働く子どもを救出し、家族のもとへ返したり保護施設に預けたりする活動を始める。



↑ CCD が運営する養護施設
マクタニール子どもの家

<活動内容>(2007 年度に CCD が行った支援事業)

- ・児童労働を強いられていた子どもや貧困のために児童労働に従事する危険がある子どもを保護する養護施設「マクタニール子どもの家」の運営。(FTCJ が支援している事業)
- ・農村におけるコミュニティ活動。
- ・マクタニール子どもの家や近所の子どもたちが通う学校 CCD アカデミーの運営。
- ・農村において 65 の学校を運営し、13,147 人の子どもへの基礎初等教育(basic primary education)。
- ・CCD が運営する学校を卒業した 1,447 人の子どもが公立の中等学校 5 年生(V in middle school)に進む。
- ・これまで教育を受ける機会がなかった 1,486 人の子どもが CCD が運営する学校へ入学。
- ・CCD アカデミーを除くすべてのコミュニティで新入生のうち 50%の女の子への支援を実現。
- ・親への啓蒙活動。農村のコミュニティメンバーの学校運営への参加。
- ・親が子どもの教育に関心を示し、学校の授業料の一部を支払っている。
- ・16 の学校では経済的に授業料だけで自立できるレベルに達した。
- ・毎月の農村のコミュニティメンバーと教師の話し合い。
- ・毎月の農村のコミュニティメンバーによる CCD への報告。
- ・6 月と 10 月に教師トレーニングを実施。
- ・Bhurkunda と Chakla の農村コミュニティメンバーによる学校建設への資金・労働力の提供。学校はまもなく完成予定。



↑ マクタニール子どもの家で
楽しく遊ぶ子どもたち

【マクタニール子どもの家について】

- ・1 月、児童労働や貧困から解放された子どもたちが暮らすマクタニール子どもの家で、子ども達が映画「WE SEE」を作成しました。(CCD では毎年、教育の一環として子ども達が中心となって映画の撮影を行います。)

・3月、マクタニール子どもの家で暮らす子どもたち全員が、最終試験を受け、合格しました。(インドでは小学校でも進級テストがあり、落第すると留年となります。1年生から6年生までの進学率は80%程度です。もちろん、進学できないことには様々な理由があります。)

・4月、CCDの代表であるスワパン・ムーカジ氏によって撮影された「What is the Future?」が4月12日から21日にかけてイタリアのポローニャで開催された第7回人権夜映画祭で選ばれ上映されました。

・8月、CCDの代表であるスワパン・ムーカジ氏がCNNインドの番組「The Real Hero's」でReal Heroとして取り上げられ、放送されました。

・8月、マクタニール子どもの家の子供たちが、映画「WE ARE」を撮影し、ニューデリーで開催されたCMS Vatavaran 映画祭に選ばれ上映されました。(インドは年間映画制作本数・映画館観客総数ともに世界一多い映画大国です。)

・マクタニール子どもの家の子供たちによって撮影された

「WE SEE」はオーストラリアのシドニーで開かれた子どもと青少年のためのアー

バン国際映画祭、第24回シカゴ国際子ども映画祭、イランのテヘランで開かれた第5回ロシュッド国際子ども・青少年監督映画祭、第4回カルカッタ短編映画祭で選ばれ上映されました。そして、9月にフィンランドのトゥルクで開催された

国際子ども映画祭で「エル・ジュリーの子供による最優秀映画賞」を受賞しました。

・CCDによって制作された映画「What is the Future?」と「The Inner Eye」が、12月にカルカッタのナンダンで開催された第4回カルカッタ短編映画祭で選ばれ上映されました。



↑ CCD アカデミーで昼食を取る子どもたち

<FTCJ インド支援事業活動報告> (2007年度にFTCJがCCDに対して行った支援内容)

- ・6月6日 223,999 円の資金援助 (マクタニール子どもの家の運営費: 子ども支援、15人のスタッフ給料含む)
- ・受益者...マクタニール子どもの家で保護されている40人の子どもたち
- ・8月、スタディーツアー参加者による文化交流。
- ・その他通年に渡ってインドの子どもの現状を伝えるイベント(展示会や出張講演、資料作成)を実施。

感想・ふりかえり

〇一年をふりかえて・リーダーの一言・これからの抱負

2007年度はインド事業チームの創立メンバーが卒業して、はじめて迎えた1年間でした。スタディーツアーやチャリティーコンサートなど、恒例となったイベント以外にも、創立メンバーのエネルギーを受け継いで、チャリティーライブやフリーマーケット、ペットボトルキャップの回収などの新しい活動にチャレンジしたりもしました。これらの活動を通して、貴重な経験を得るとともに、新たに様々な人たちと知り合うことができました。この縁を今後の活動につなげていくことができれば、きっと大きな成果につながります。スタディーツアーではパートナー団体と連絡を密に取り合い、相手のことを知るだけでなく、自分たちの活動、思いを伝えていくことの大切さを痛感しました。金銭的な支援という面では、まだまだ大きな成果には繋がっていません。子ども参画についても具体的な行動に移せずにいます。

反省することあり、学ぶことありの一年でしたが、イベントなどの機会には児童労働やインドの子どもたちについて多くの方に考えてもらうこともできました。来年度は、児童労働やインドの子どもたちについて考え、関心を持ってくれた人たちの思いをインドの子どもたちに具体的な形でつなげられるようにしていきます。

<モンゴル支援事業>

貧困地域に移動図書館を設置し、図書館運営事業を2008年度から開始するための準備活動を行いました。

支援事業予定場所: ウランバートル市内チンゲルテイ地区のゲル地域(#92学校地区)

受益者: 92学校に通う生徒数約2,000人の子どもや、その兄弟姉妹の幼児たち

予定支援事業内容: 「移動ゲル図書施設」を設置し、その運営をおこないます。モンゴルの厳しい暑さや寒さから身を守り、勉強や交流、安らぐ場所としてゲル施設を設置します。具体的には、子どもが読書や勉強など知識を深めることができる場所とするため、図書や、文房具、机、いす、その他教材などの提供や、子どもをサポートしたり見守る専従職員を配置します。季節や状況に応じて場所を移動するなどする予定です。また、支援事業地域のモンゴルの子どもと日本人が絵画、写真、手紙などを通じてお互いに交流し、相互に協力し理解を深めるよう特別交流事業を行います。

事業名	事業報告と感想	実施日	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
移動図書館設置運営事業	モンゴルでの移動図書館運営事業を開始するために、現地での土地確保、支援地域の貧困家族の調査、その他事業開始に必要な諸手続きを実施した。現地協力: 高岡良助氏(NPO アジアの会代表)また、事業のための資金調達協力メンバーへの情報提供を行い、支援者の方々から多くのご協力を得られて感謝しています。	通年	支援地域に住む2000人の子ども	14 50

<FTC ネットワーク海外支援事業>

FTCインターナショナル(本部カナダ)が担当するアフリカのシエラレオネ支援事業への協力活動を実施。

西アフリカに位置する北海道ほどの小さな国「シエラレオネ」では、ダイヤモンド鉱山の利権争いのために 11 年間もの長い市民紛争が続いたため、たくさんの残虐行為が行われ、未だに多くの人々が苦しんでいます。戦いは国民全体に大きな傷を残し、ほとんどの地域が打撃を受け、国として機能できていない部分があることも否めません。この紛争では約 1 万人もの子どもが兵士として闘わされました。

そこで、FTC カナダはシエラレオネへの支援事業を 5 年前にスタートし、地域の村の復興のために衛生的な水の確保を目指す井戸建設プロジェクトや子どもへの教育支援のために学校建設・運営プロジェクトなどを実施しています。FTCJ では、カナダとシエラレオネの FTC ネットワークに協力し、子どもへの教育支援事業に対して 06 年度からの繰越寄付金と併せ 07 年度はシエラレオネ支援事業のために 105,000 円を送金しました。シエラレオネへの寄付にご協力下さったみなさん、心からのお礼とともに事業を報告します。

【学校建設・修繕プログラム】

学校建設と、学校修繕費、その他設備設置のための事業

(1 クラスだけであったり、数クラスあったりと、地域によって必要な教室の数や設備が異なるため、学校のデザインと建設方法などはその地域によって変わります)

【教育プログラム】

50ドル) 文房具など学習用品の購入サポート

100ドル) 教科書の購入サポート

250ドル) 学校校庭の植林サポート

500ドル) 学校教師の給与サポート

1,000ドル) 教師寮建設サポート

写真はシエラレオネの子どもたちへ文具セットや制服を提供した時のものです。



(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業報告

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
翻訳事業	事業の運営に関係する資料を日・英に翻訳。	通年	—	12人	—
メンバー管理	アクセスのデータを構築し、メンバーや協力者などの個人情報情報を整理し、管理。有給スタッフを設置し、情報入力を図れたが、メンバー数増加に伴い仕事量が増えるので人材や経費の確保がより必要である。	通年	事務所	5人	143
問い合わせ対応	eメール、電話、FAX、郵送にて事務局に届く問合せや連絡に対応。対応例：事務所訪問、出張講演調整、教材や物販の注文、団体など組織からのアンケートへ返答、子ども、大学生、社会人からの質問への返答、メンバー希望、団体への質問への返答など	通年	事務所、大阪連絡所	5人	108
その他事務所の運営・管理	事業を円滑に実施するための事務所の運営とその管理。(会計や資料作成、印刷など)	通年	事務所	—	423
その他	事務所管理、什器管理など	通年	事務所	3人	545

＜配信記事・団体紹介一覧＞メディアでの報道や他団体の機関紙や書籍での活動紹介、メンバーによる寄稿一覧 : 多くのプレス関係者や団体で活動をアピールする機会を頂きました、ありがとうございます。(11件以上)

記事配信媒体名	時期	内容
人権タイムス 機関紙	5、7、9、11、1、3月号	事務局長中島早苗による世界の権利を奪われた子どもの現状やFTCJの活動の取り組みについての原稿が定期掲載
読売新聞 ジュニアプレス	5月18日 夕刊	フェアトレード月刊でのFTCJ活動の取り組みが紹介されました。
月刊クーヨン(クレヨンハウス機関紙)	5月	FTCJ活動紹介記事の掲載(中島早苗)
子ども情報研究センター 機関紙「はらっぱ」	10月号	フィリピン支援事業チーム所属の萩原由加、藤田彩也香によるフィリピン訪問について報告原稿が掲載
憲法から考えよう 青木出版	8月	コラム「子ども国会とFTCJ」の原稿を寄稿(中島早苗)
ソトコト	NPO特集号(2月)	FTCJの活動紹介が掲載
中学公民教科書	ビジュアル公民 2007	P103の子ども兵士や教育を受けられない子どもについての情報を提供しました。(団体の名前も掲載)
高等学校震源団社会 改訂版 清水書院	指導と研究テキスト	FTCJの活動を始めるための7ステップ!が紹介されました。(310～311)
国際協力ガイド	仕事研究×職場図鑑	ボランティア活動紹介のコーナーでFTCJが紹介されました。
静岡新聞	3月	静岡で活動する高校生メンバー瀬川愛葵のモンゴル支援事業への取り組みが紹介されました。
MAMMOTH マンモス(有)ニーハイメディアジャパン	フォー パパママ&キッズ 子どもと一緒に地球とあそぼう No.16 (3月)	17Pでフリーザ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動と児童労働ウォークの活動の紹介がされました。
NHK教育テレビ ティーンズTV 地球データマップ「世界の貧しさのためにできること」	10月、11月(再放送)	どうして貧しい国と豊かな国があり、格差があるのか? 植民地からつながる現状をわかりやすく伝え、貧しさとは何かについて紹介し、同時にODAなど、いま私たちに何ができるのかのヒントの部分でFTCJのフィリピンスタツアの様子や活動紹介がされました。
テレビ大阪系「石橋勝のボランティア21」	6月～7月	子どもの居場所を考える会代表の原順子さんや、FTCJ四日市支部の活動が紹介されました。
その他		ネット配信によるニュースで紹介されました。

以上